

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

教務委員会

(責任者名) 安藤 みゆき

(役職名) 教務委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況		教務委員会では、本プログラムを構成する「データサイエンス入門」と「マルチメディア演習」(いずれも1年次の教養科目)の履修・修得状況を継続的に把握し、分析を行っている。この分析に基づき、履修制度の改善や教育成果の確認、履修率向上のための具体的な方策を協議している。 令和7年度にこれら2科目を履修した学生は16名。今後も、履修指導体制の整備や、各学科のカリキュラムに配慮した時間割編成の検討を継続して検討していく。
学修成果		学修成果の把握については、本プログラムを構成する授業科目における学生アンケートをもとに分析し、担当者による自己評価シートを活用するとともに、全学生を対象に毎年度実施する「茨城女子短期大学・学生調査」の結果を分析し把握する。特に調査項目のうち、「18. 数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能」の項目を分析することで、本プログラムの学修成果の定量的な把握が可能である。令和7年度については、今年度実施する予定である。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度		全学の授業科目を対象として実施している「授業評価アンケート」に加えて、本プログラムを構成する授業科目では、内容の理解度の調査を含めた独自のアンケートを実施し、活用している。 本プログラムを構成する2つの授業科目の履修者に対するアンケートでは、より具体的にモデルカリキュラムに対応した5つの審査項目に関する理解度の自己評価を調査し、教務委員会で情報共有し改善に生かしていく。
学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度		後輩等他の学生への推奨度は、現在実施している学生アンケートの「理解度」や「授業を受ける中で感じた良かった点や改善してほしい点」に加えて、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム修了者アンケート」において、友人や後輩に受講を検討している人がいたら、プログラムをお奨めすることができますか」という設問を設け、本教育プログラムの評価についてを検討したい。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況		本プログラムをより多くの学生に周知するため、各種オリエンテーションにおける説明時間の確保や、プログラムを紹介するWebページの内容を充実させるといった、学内広報を継続的に強化する。また、本学独自の縦割りのグループ活動を生かし、入学時オリエンテーション時に上級生からの履修科目に関する情報提供の場などを生かしていきたい。 また、選択科目として履修する授業科目を受講しやすくするための工夫として、配当学年や時間割編成の検討などを継続的にを行い、より多くの学生が本プログラムの修了を目指せる環境整備を行う。
学外からの視点		
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価		本プログラムは令和7年度から開始し、令和8年度は対象学年のすべての学生が在学中であるため、卒業後のデータに基づく評価結果は得られていない。 今後は、進路相談室が実施している「卒業生調査」などを活用し、本プログラムの修了者の卒業後の調査を継続的に実施し、進路や活躍の状況などについて確認を行う。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見		本プログラムの教育内容を改善することを目的として、進路相談室が実施している「卒業生調査」への設問の追加や、産学連携の実績がある企業などを対象としたアンケートや意見聴取などを行う。具体的には、「本プログラムに今後期待することや、プログラムの充実に向けて具体的に必要だと思う取り組み」や「生成AIを有効に活用する力」「情報の正当性を判断する力、データ分析の限界を理解する力」などの育成が予想される。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		本プログラムを構成する授業科目では、履修者の意欲を引き出し、当該分野の学びの楽しさと、実社会とのつながりを通じた学びの意義を実感できるような授業を実践している。 1年前期の授業科目「マルチメディア演習」では、身近なデータを用いた演習に加え、アクティブラーニングの技法を取り入れ、学生同士の対話を通じて楽しみながら学べる工夫を行った。また、双方向的な学びの中で、日常生活におけるデータサイエンスの意義への理解を深めた。この科目は、1年後期に開設される「データサイエンス入門」を履修する上で前提となる知識を身につける科目となっている。 「データサイエンス入門」では、オープンデータや生成AIの活用をテーマとした演習を取り入れ、データサイエンスやAIがどのように実社会と関連しているかを楽しみながら学べる工夫を行った。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること		全学の授業科目を対象として実施している「授業評価アンケート」に加えて、本プログラムを構成する授業科目で独自に実施している理解度に関するアンケートを行い、授業の内容及教育方法に関する改善を継続していく。 モデルカリキュラムに準じた学修内容を保証しながら、履修者の所属する学科ごとの専門性を踏まえた「分かりやすい」授業を提供していくことが課題である。
※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		